

科学的知見創出に資する可視化 (8) :

# 可視化を基盤とする分野横断型デジタル視考

令和5年7月21日(金) 13:00~17:10

参加無料

事前申込制  
(定員:200名)

現在、様々な研究分野で、計測や観測、インターネット上でのデータ収集、実験やシミュレーション等により、多種多様なデジタルデータが生成・蓄積され続けている。この状況は、科学技術のみならず、文化財保存や社会ジャーナリズムなど、伝統的にはアナログデータを用いていた研究分野にまで急速に広がっている。こうした状況を受け、研究分野を問わず、デジタルデータが研究の第1次データとなることが増えており、その状況を最大限に活かした新たな学術研究の創出が、今、求められている。一方、大規模・複雑なデジタルデータの理解と活用に必須なのが「可視化」である。そこで本シンポジウムでは、デジタルデータの可視化をコアとする分野横断型の研究スタイルとしての「デジタル視考」を追求する。とくに、「科学技術」、「文化芸術科学」、「社会科学」の3分野に跨がる学際的研究に関して、文系・理系の枠にとらわれず、具体的な議論を展開したい。併せて、科学的知見の創出に資する可視化分科会の調査・議論の成果も紹介する。

参加登録

右のQRコードから  
お申し込みください。  
<https://tra-vis08.peatix.com/view>



会場 日本学術会議講堂

## プログラム

13:00	開会の挨拶 小山田 耕二 (総合工学委員長、日本学術会議第二部会員、大阪成蹊大学データサイエンス学部教授)	[第3部] 心の可視化とデジタル視考 コーディネータ・司会 / 鹿内 菜穂 (亜細亜大学経営学部准教授)
		14:30 「こころの可視化」 加藤 千恵子 (東洋大学総合情報学部教授、学部長)
[第1部] 科学技術とデジタル視考		[第4部] 社会科学とデジタル視考
13:05 「可視化分科会が考える『科学技術とデジタル視考』」 藤代 一成 (連携会員、慶應義塾大学理工学部教授)		15:00 「可視化分科会が考える『社会科学とデジタル視考』」 伊藤 貴之 (連携会員、お茶の水女子大学理学部教授)
13:15 「農業DXと可視化」 茅 暁陽 (山梨大学理事・副学長)		15:10 「大規模な群集移動の計測・シミュレーション・最適化・可視化」 大西 正輝 (産業技術総合研究所人工知能研究センター研究チーム長)
[第2部] 文化芸術科学とデジタル視考		15:40 休憩
13:45 「可視化分科会が考える『文化芸術科学とデジタル視考』」 田中 覚 (連携会員、立命館大学情報理工学部教授)		[第5部] 総合討論
13:55 「文化資源デジタルアーカイブからパブリックヒューマニティーズへ」 赤間 亮 (立命館大学文学部教授、立命館大学アート・リサーチセンター長)		15:50 総括講演 萩原 一郎 (特任連携会員、明治大学研究知財戦略機構研究特別教授)
14:25 休憩		16:10 総合討論 (パネルディスカッション) コーディネータ・司会 / 竹島由里子 (東京工科大学メディア学部教授)
		パネリスト / 講演者および分科会が推薦する研究者等
		17:10 終了

主催 / 日本学術会議 総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会

共催 / 可視化情報学会、日本応用数理学会、日本機械学会、日本シミュレーション学会、画像電子学会、芸術科学会、画像情報教育振興協会 (CG-ARTS)、情報処理学会コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会、慶應義塾大学知的環境研究センター、立命館大学アート・リサーチセンター、お茶の水女子大学文理融合 AI・データサイエンスセンター

後援 / 日本自動車技術会

お問い合わせ 慶應義塾大学理工学部 藤代 一成 (ifujishiro[at]keio.jp)  
立命館大学情報理工学部 田中 覚 (stanaka[at]is.ritsume.ac.jp)  
お茶の水女子大学理学部 伊藤 貴之 (itot[at]is.ocha.ac.jp)